

第2回 不登校に関する調査研究協力者会議



鳥取県教育委員会

令和3年11月25日(木)

1

ご報告 内容

○本県の不登校の状況

○本県の不登校支援施策の全体像

不登校支援を進めていく上で

○鳥取県の弱み・困り感からの取組

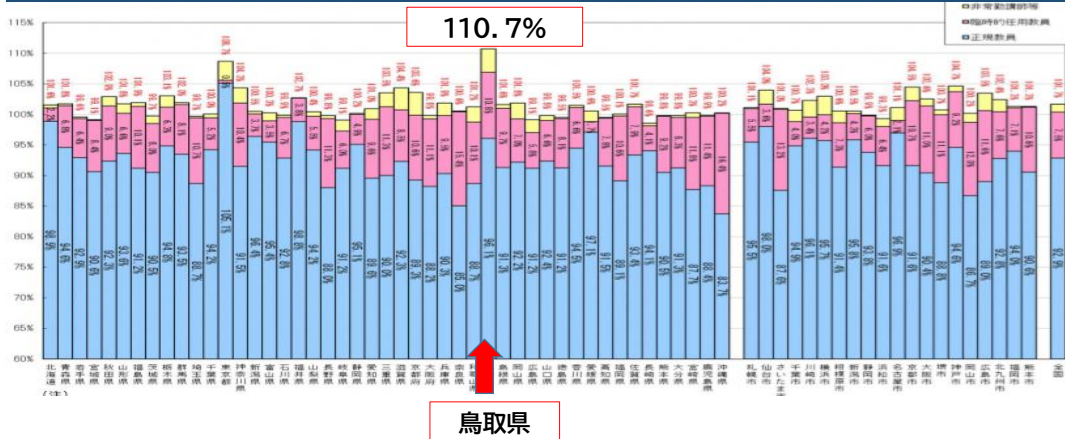
○今感じている不登校支援での課題

2

鳥取県の市町村数 19市町村

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
学校数	118校	56校	4校	32校	9校
児童生徒数	28238人	14526人	801人	14525人	762人
教員数	2415人	1403人	106人	1379人	659人

公立小・中学校等の教員定数の標準に占める正規教員の割合(令和2年度)



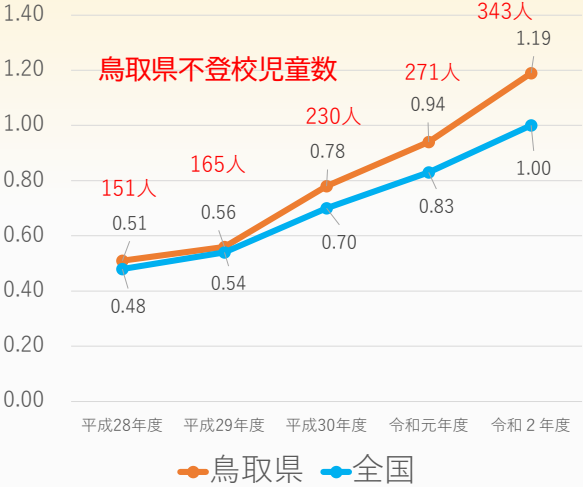
強み・よさ

不登校支援における
鳥取県の現状

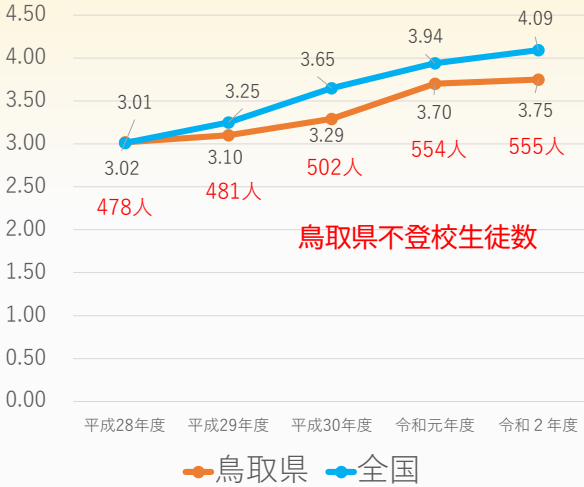
弱み・困り感

- ★市町村との連携が行いやすい(19市町村)
- ★学校数、児童生徒数が少ない(不登校者数)
- ★交通手段が限られている(自家用車移動)
- ★専門家、支援者が十分にいない
- ★選択肢(支援場所)が少ない

不登校児童数等の年次推移
(小学校)



不登校生徒数等の年次推移
(中学校)



【案】令和4年度 小学校高学年における教科担任制の推進

教科担任制推進の目的

平成28・29年度及び令和3年度「小学校高学年における教科担任制事業」の成果を踏まえ、
①学習指導の充実 ②生徒指導の充実等 ③働き方改革の推進 ④中学校への円滑な接続 を視点に、鳥取県における「令和4年度小学校高学年における教科担任制」を県内の各小・義務教育学校(前期課程)で推進していく。

小中学校課

鳥取県における教科担任制の考え方

◇学級担任間の交換授業
担任同士による教科担任制の推進
(国語と算数、社会と理科等を中心に)

◇専科教員の教科授業
専科加配及び級外教員による教科担任制の推進
(外国語、理科、算数及び体育等)

【推進のための取組】
○教科担任制に係る連絡協議会の実施
○効果的な取組の情報発信

期待される効果

- <①学習指導の充実> ※学力向上に向けて
 - 教材研究が充実し、質の高い授業が提供できる
 - 同じ教材での複数回授業により指導が充実する
 - 専門的な知識や指導法を意識するようになる
 - 授業時間を意識し、焦点化された授業になる
 - 学習規律が学年で統一できる
- <②生徒指導の充実等>
 - 学校全体で児童を見守っていく意識が高まる
 - 学年主任を中心に担任同士の会話が活発になる
- <③働き方改革の推進>
 - 教材研究、準備の時間が短縮できる
 - 空き時間が増えることで、学級事務が効率よくできる
- <④中学校への円滑な接続>
 - 児童が中学校での学習・生活に順応しやすい

(平成28・29年度推進校、令和3年度推進校の報告より)

児童の感想

- いろいろ先生と話ができ、相談もできるようになった
- 専門の先生に教えてもらい、授業が楽しく、おもしろくなった
- 先生が代わると気持ちの切り替えができる

(平成28・29年度推進校、令和3年度推進校の報告より)

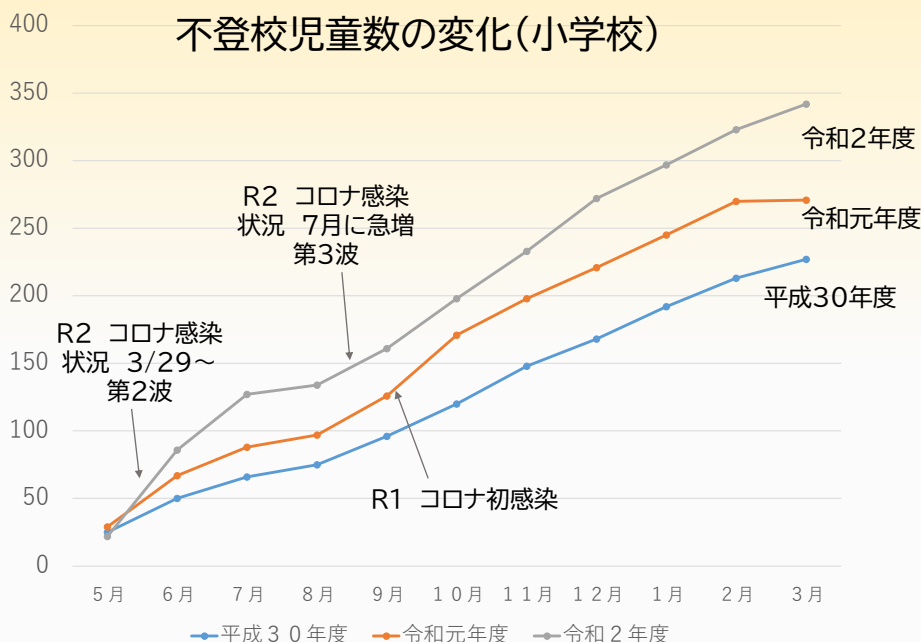
※学校規模に応じて教科担任制の指導形態を工夫する

【学級担任間の交換授業の例】

事例①	国	書	社	算	理	音	・	・	・
6年1組 担任A	A	A	A	B・F	A	G	・	・	・
6年2組 担任B	A	A	D	B・F	B	C	・	・	・
事例②	国	書	社	算	理	音	・	・	・
5年1組 担任A	B	B	A	C	G	H	・	・	・
5年2組 担任B	B	B	A	C	G	H	・	・	・
5年3組 担任C	B	B	A	C	G	H	・	・	・

課題

- ・教務主任が時間割を組むのが大変
- ・校内研究会の工夫が必要



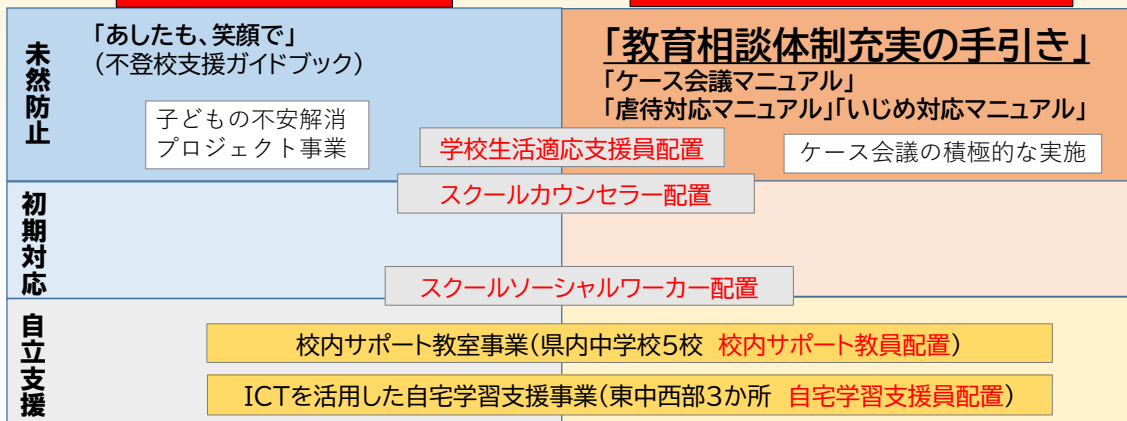
7

鳥取県の不登校支援施策の全体像

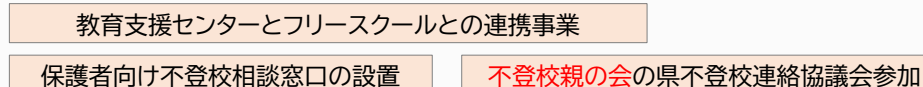
【旧】人間力・組織力による不登校改善事業(H30-R1) → 【新】安心した学校づくりコラボ事業(R4~)

児童生徒理解

校内組織体制づくり



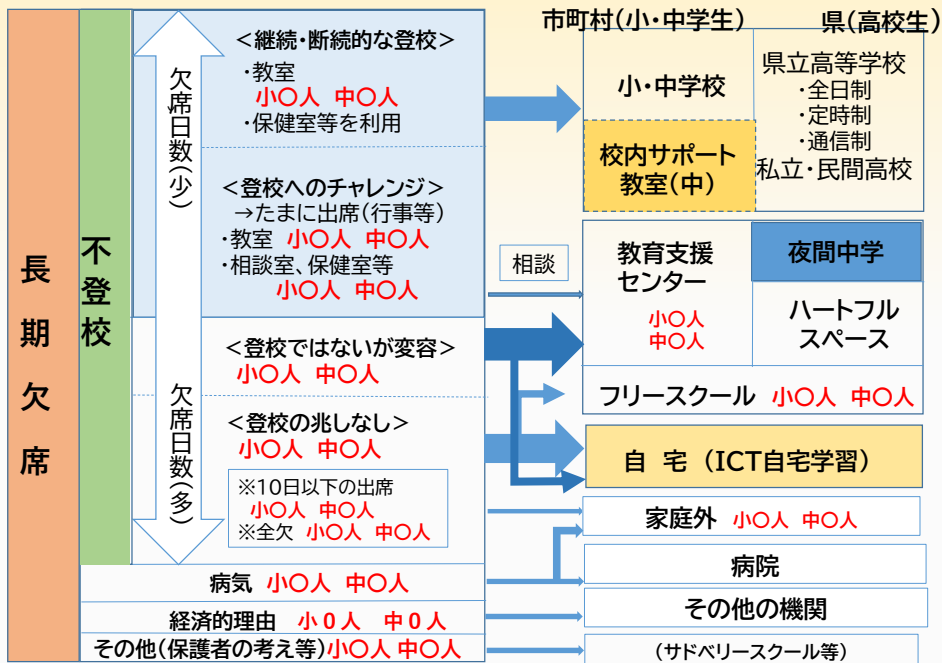
保護者支援



8

不登校の状況・支援体制

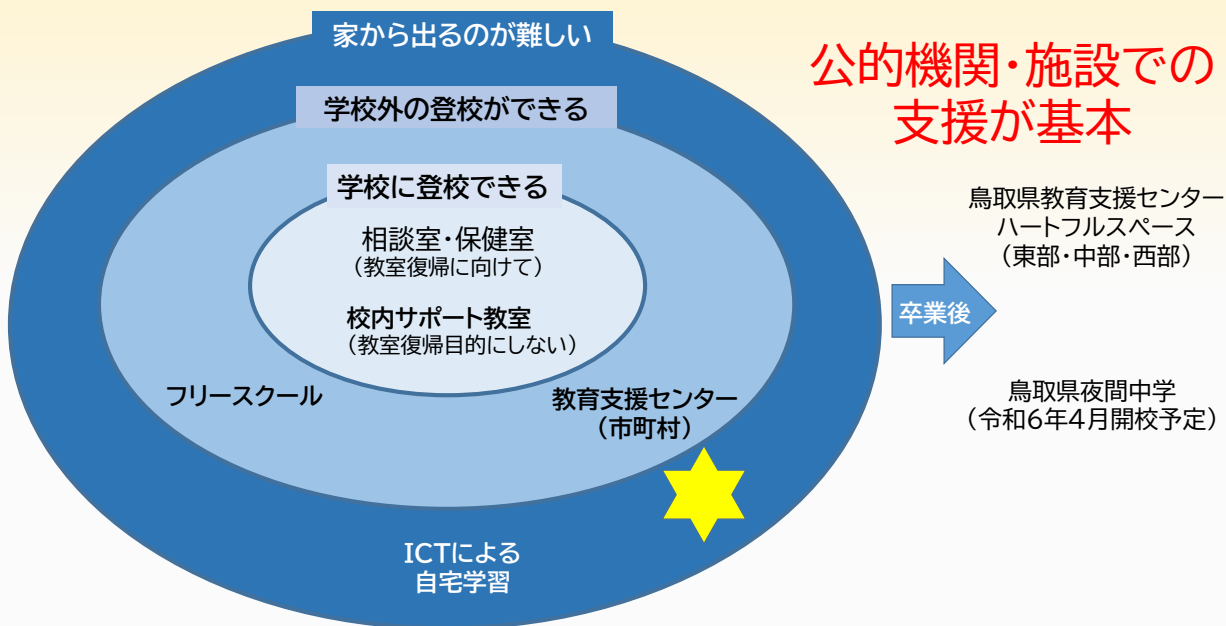
平成30年3月末時点 いじめ・不登校独自調査



9

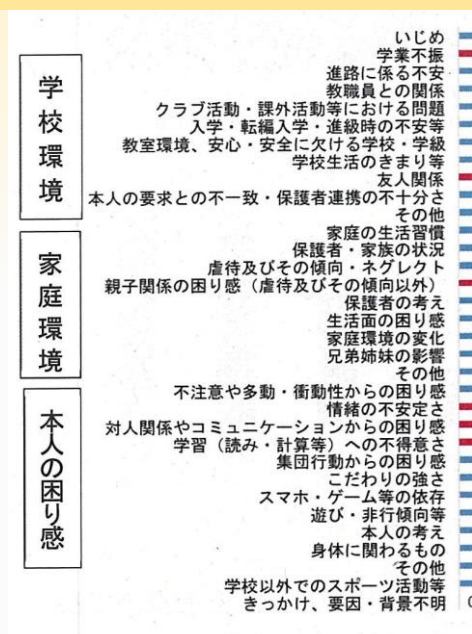
鳥取県の不登校児童生徒の学びの保障・居場所づくり

公的機関・施設での支援が基本



10

H30 不登校の要因・背景把握シートによる調査結果【小学校・全児童】(複数回答可)



11

専門家等、人的資源の不足

不登校支援 様々な子どもたちの状況
より専門的なアセスメントに基づく支援が必要！

- SCの配置 →有資格者が不足 「臨床心理士会との連携」
- SSWの配置 →有資格者が不足 「SSW育成研修の実施」
- 病院、小児科医の数 →診察2か月待ち 「専門医相談」

学校内での組織体制づくり・教師の専門性が重要

12

令和3年度 専門医による教育相談会

要予約

学校生活や家庭生活での不安や悩みをご相談ください。

無 料 秘密厳守

対 象 幼児、児童、生徒及び保護者、保育・教育の関係者

相談内容

- 不登校、ひきこもり、いじめなどに関する事
- 発達の遅れや障がい、就学などに関する事
- 子育てに関する事

相談担当者 小児科、精神科の専門医

予約・問合せ ☎ 0857-28-2322 (月～金 9:00～17:00 ※年末年始・土日祝日を除く)

※予約は、ふた月前の1日から受け付けます。

※教育相談会の利用は、原則1回とさせていただきます。 ★県HPに予約状況を掲載しています。



東 部

会場：鳥取県教育センター
(鳥取市湖山町北 5-201)

中 部

会場：中部ハートフルスペース
(倉吉市上井 503-1)
中部療育園隣 (旧河北中)

西 部

会場：西部総合事務所福祉保健局
(米子市東福原 1-1-45)

1 3

「教育相談体制充実のための手引き」

～不登校、いじめ等の未然防止、早期発見及び早期支援に重点を置いた
チームとしての組織体制づくり～

- 1 教育相談体制充実のポイント
- 2 スクリーニング会議を活用した未然防止、早期発見及び早期支援
- 3 ケース会議を活用した支援の流れ
- 4 スクールカウンセラーの職務内容
- 5 スクールソーシャルワーカーの職務内容
- 6 教育委員会における支援

教育相談体制充実のための手引き

不登校、いじめ等の
未然防止、早期発見及び早期支援に重点を置いた
チームとしての組織体制づくり



令和元年9月一部改定
鳥取県教育委員会

1 4

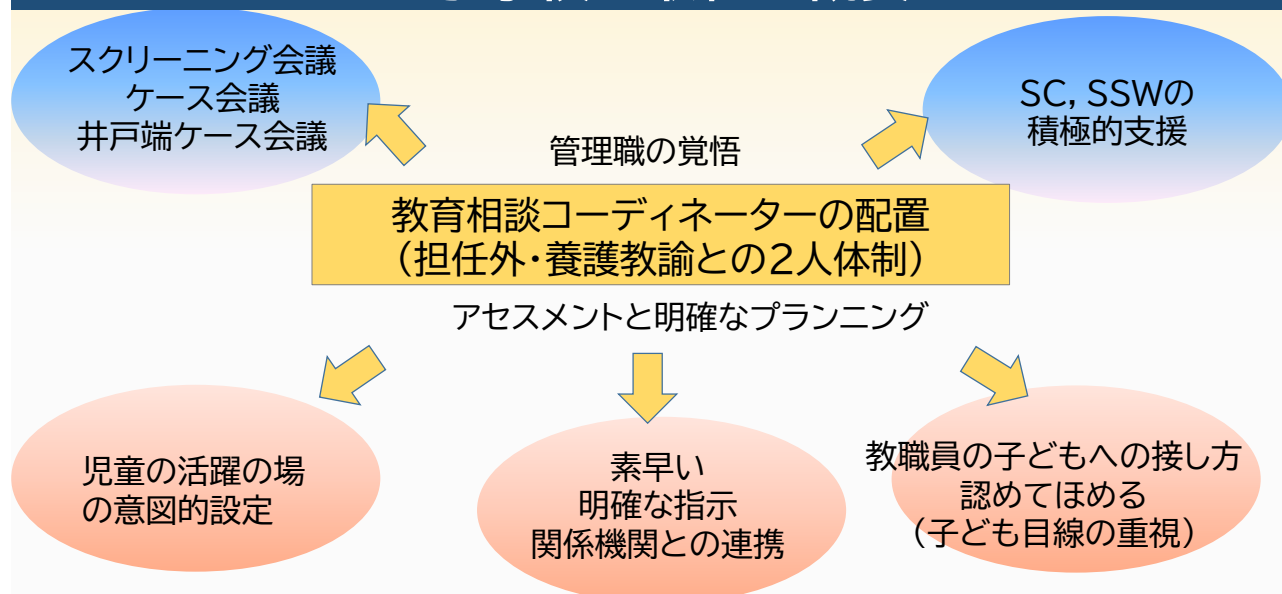
アセスメントとプランニングに基づく子ども支援 「ケース会議マニュアル」

- ケース会議の基礎
- ケース会議によるアセスメントとプランニングの実際
- ケース会議の進め方
- アセスメントとプランニングを行うにあたっての理解
- 不登校支援のためのアセスメントとプランニング
- いじめ問題への対応におけるアセスメントとプランニング
- 暴力行為への対応におけるアセスメントとプランニング
- 児童虐待への対応におけるアセスメントとプランニング



15

人間力・組織力による不登校改善事業(H30～R1) S小学校の取組の概要



16

今、感じている不登校支援の難しさ

★校内組織体制づくり

★児童生徒理解(アセスメント力の不足)

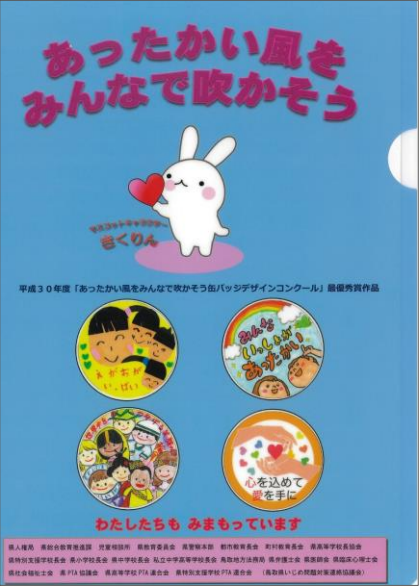
R2の状況	小学校	中学校
教育相談コーディネーター	99.2%	98.2%
スクリーニング会議の実施回数	71.9%	80.4%

●ケース会議の実施回数(県内小中学校)

年度	H29	H30	R1	R2
ケース会議の回数	1617回	2190回	2328回	2358回

17

「クリアファイル」 ～全小学生・中学生に配布



ご清聴
ありがとう
ございました。

裏面に
相談窓口の案内



18